彩の国 埼玉県
Saitama Prefecture

～ゾーニング編～

埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

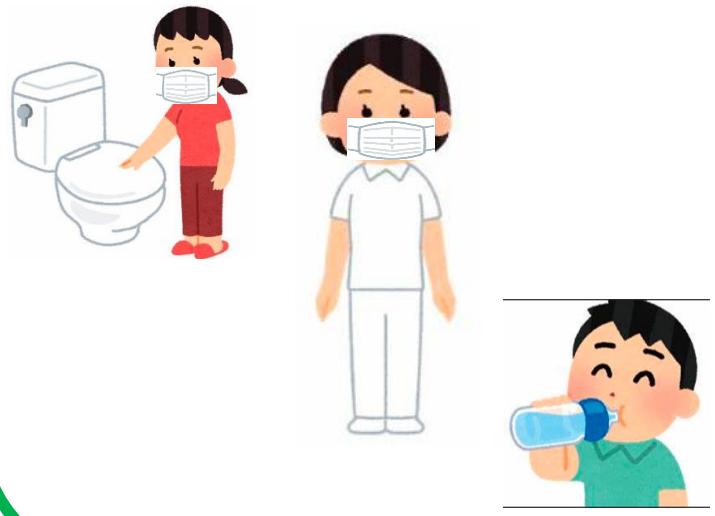
彩の国 埼玉県
Saitama Prefecture

ゾーニングとは

清潔区域と汚染区域を明確に区分けすること

グリーンゾーン：清潔区域

個人防護具が不要な場所
個人防護具を着る場所

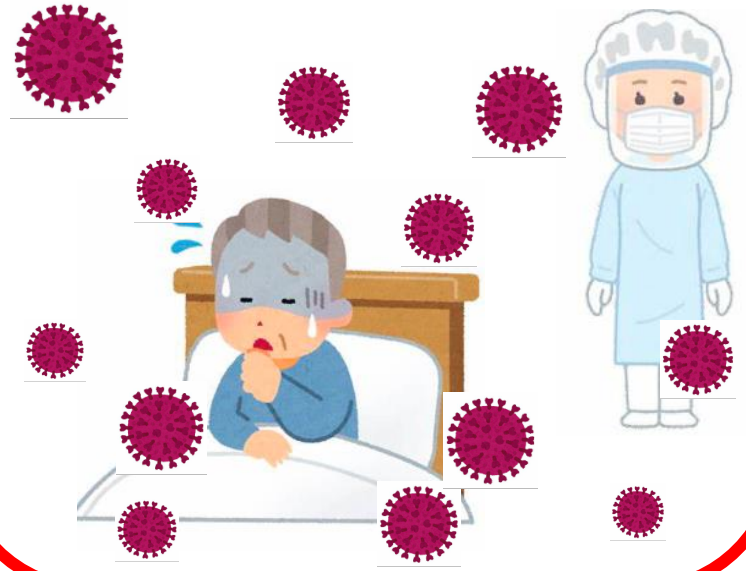


イエローゾーン

個人防護具を脱ぐ場所

レッドゾーン：汚染区域

個人防護具を着用
感染者/濃厚接触者/疑い患者

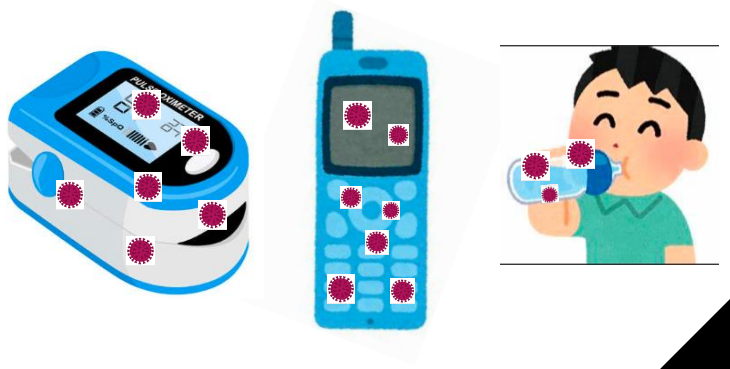


人だけでなく物品も同様に考える。原則はレッドゾーン内で専用化、持ち出す場合は消毒する。
消毒できない場合は袋に入れる

彩の国 埼玉県
Saitama Prefecture

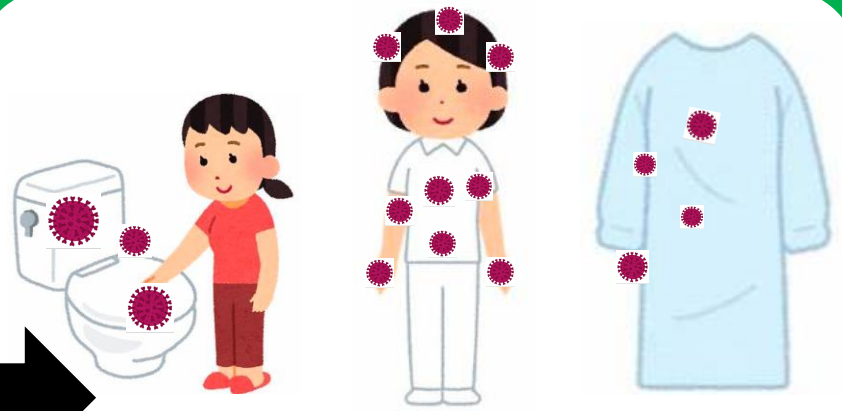
ゾーニングの考え方

ゾーニングは**場所・空間**の問題として認識されやすいが、実際には**『人』**と**『物』**も**レッドゾーンをまたいで移動するため、人や物が汚染しているのか清潔なのか**についての認識をもつことが重要である。



不適切なPPE着脱手技
手指消毒が不十分
間違った消毒
不適切なゾーニング
不適切なPPE選択

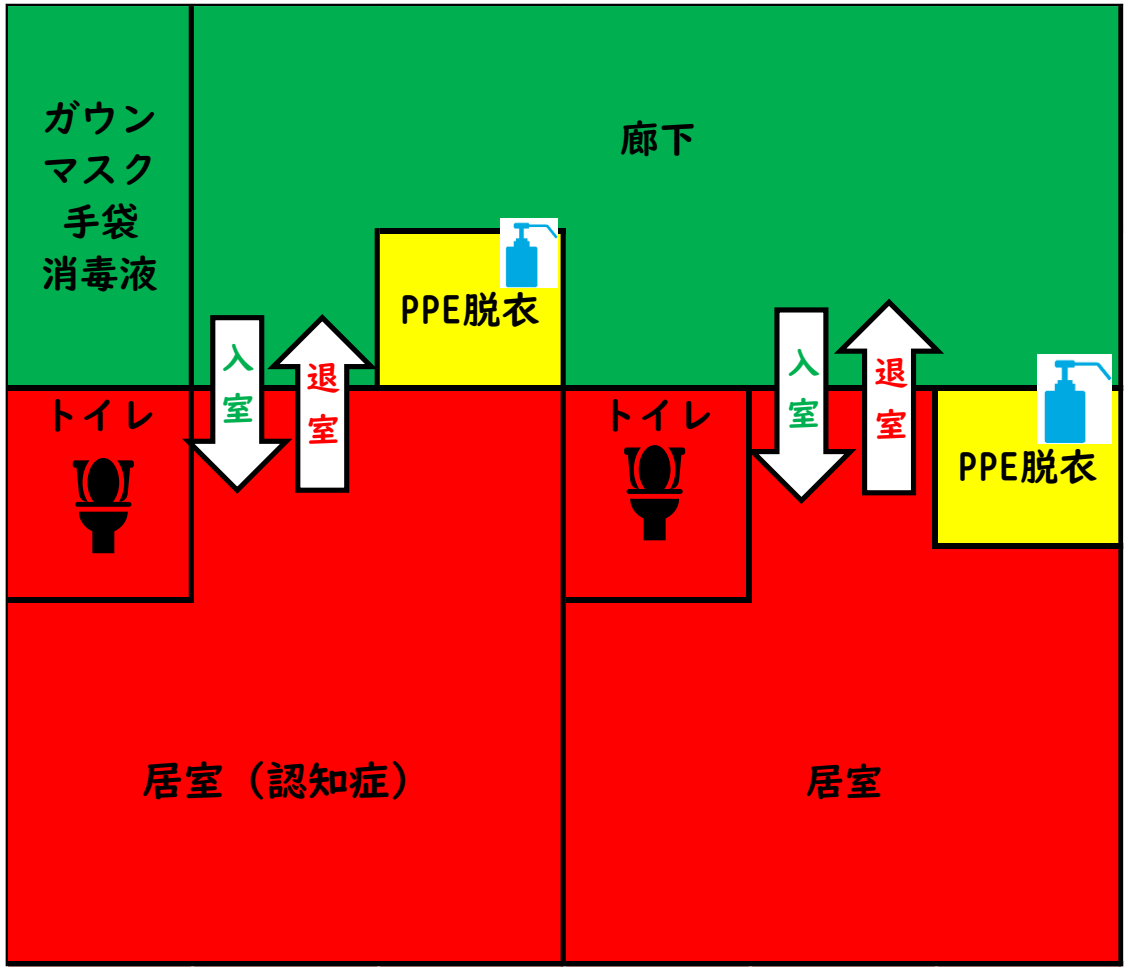
交差



彩の国 埼玉県
Saitama Prefecture

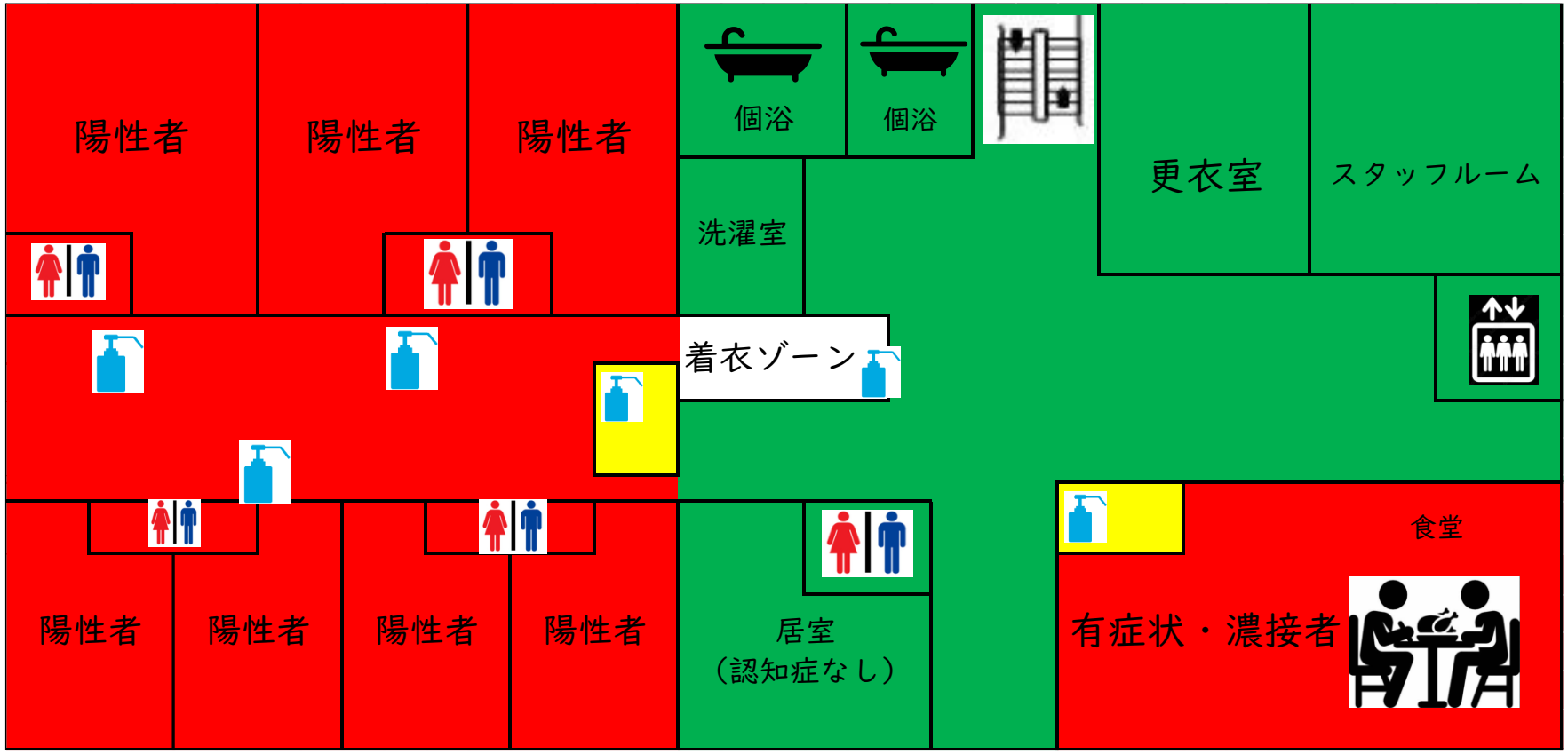
ゾーニングの基本パターン

- 床にカラーテープを張り区域を目視できるようにする
- 居室が狭い、認知症の方など居室内で脱衣が出来ない場合は廊下などにイエローゾーンを設置する
- 感染性廃棄容器は蓋付のものが望ましい
- 個人防護具の脱衣手技が記載されたポスター等を設置し正しい手法で実施できるようにする



彩の国 埼玉県
Saitama Prefecture

ゾーニングの応用パターン



感染者が多数・マンパワー不足で部屋ごとのPPE着脱が現実的ではない場合、
感染者の対応区域を廊下も含めて設定する。

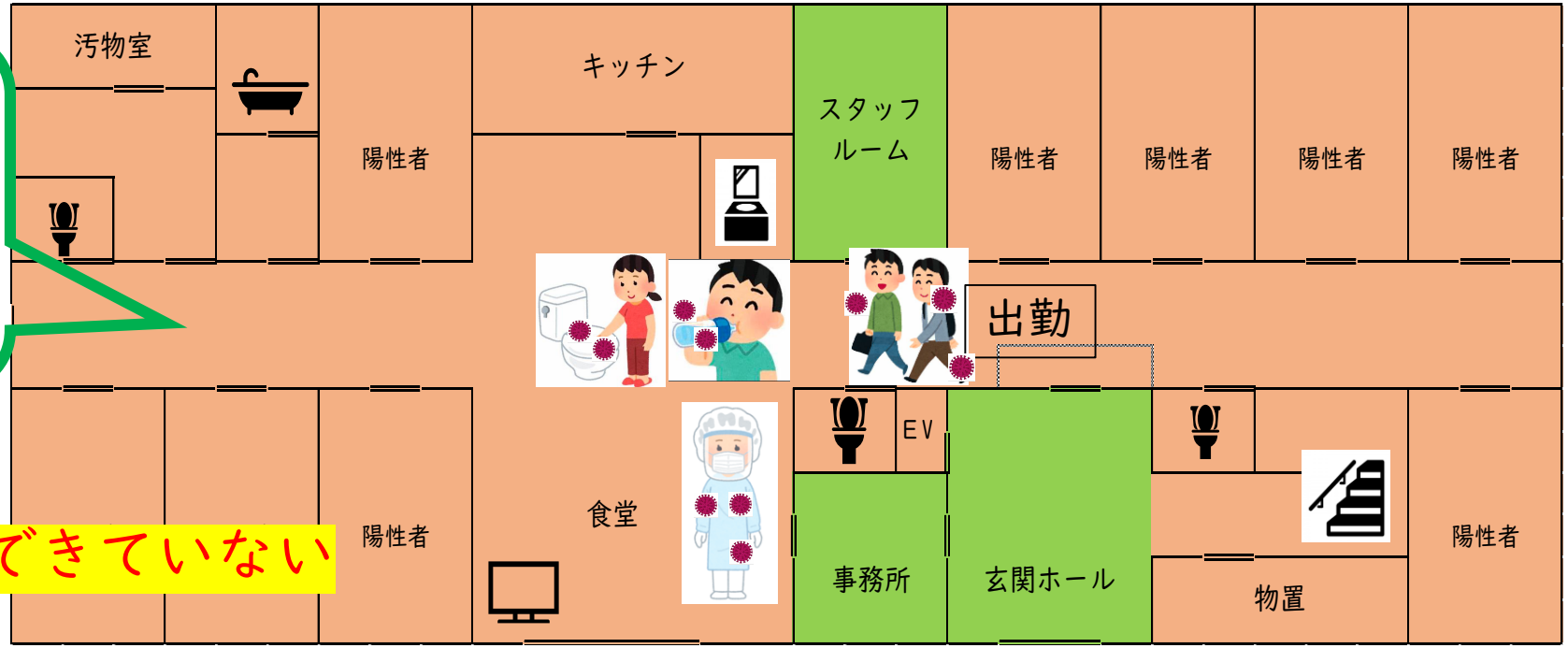
彩の国 埼玉県
Saitama Prefecture

COVMATによるゾーニング指導実例

初発陽性者発覚後、約5日で１階入居者全員が陽性となり6割の入居者が入院となった。
　また職員の5名（全体の約3割）も陽性となり現場対応はひっ迫化

職員の自己感染

職員⇔入居者の感染予防ができていない



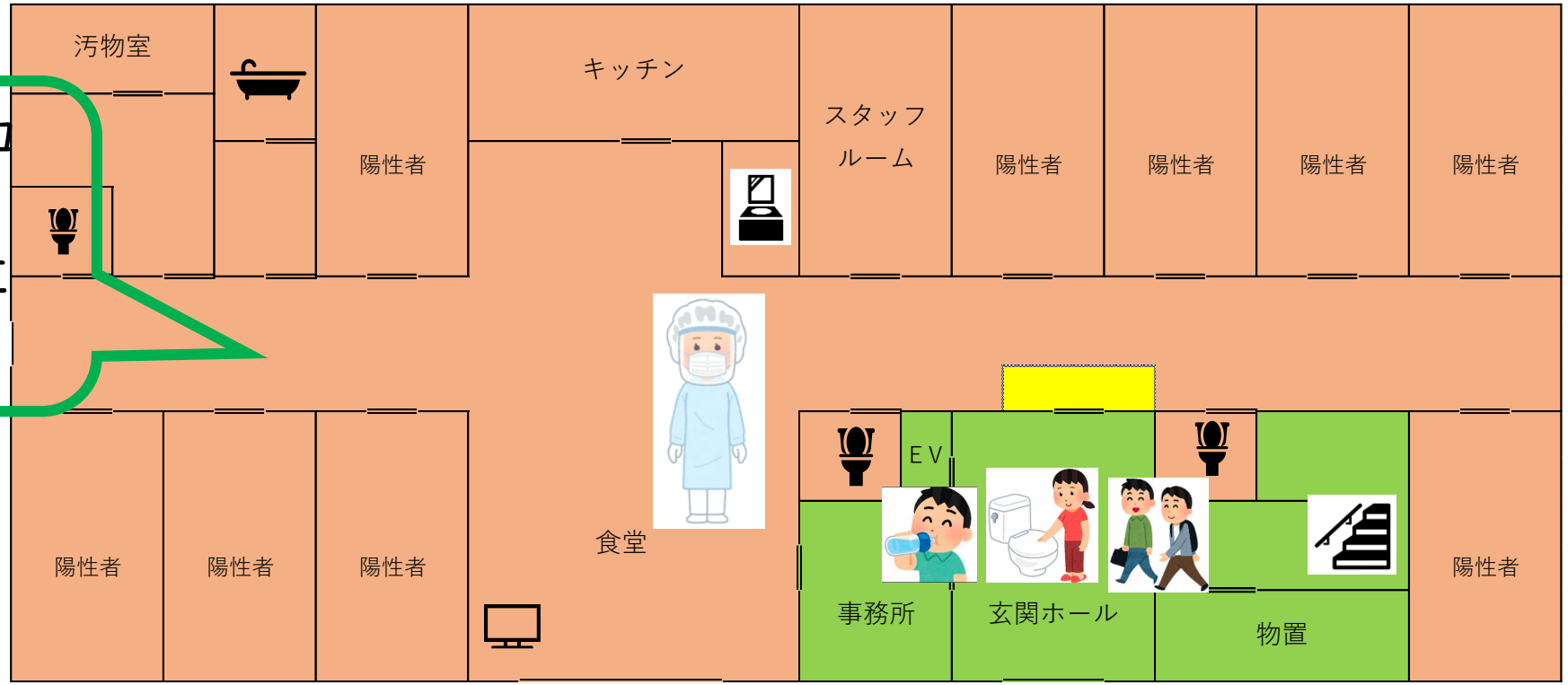
【指導前】

入居者全員が認知症あり。居室から出て、他の入居者と接触あり。
マスク着用も困難なことからフロア全体をレッドゾーンとしていた。
①動線：職員出勤時、玄関ホール→レッドゾーンを経由し→スタッフルームで着替え、荷物格納を行う
②レッドゾーンでガウン着用後業務開始。**職員はフルPPEのまま共有トイレを使用**、
休憩時は着用していたガウンをレッドゾーンにおきスタッフルームに入っていた
③消毒液は次亜塩素酸除菌水での手指・物品消毒を実施
④職員はレッドゾーン内で水分補給をしていた

彩の国 埼玉県
Saitama Prefecture

COVMATによるゾーニング指導実例

COVMAT介入後、他フロアへの感染拡大なし。新規発症者ゼロで10日後に施設収束を迎えた



【指導点】

①動線：職員の着替え、休憩がグリーンゾーンで完結できるようグリーンゾーンを再設定。
　新たにイエローゾーン、物品置き場を設定し清潔・不潔区域を明瞭化

②トイレ：職員・入居者共有で使用していたが、職員は２階のグリーンゾーントイレを使用する

③消毒液：次亜塩素酸除菌水での手指・物品消毒はつくりおきでの使用では有効とのデータ報告なし（COVMAT介入当時）目的に合わせた適切な溶液を使用する